タイ矢崎電線

地鎮祭、おごそかに

海外進出の第一歩

五月には 現地工場が完成

矢崎が海外への初進出をくわだてる「タイ矢崎電線有限公司」の現地工場地鎮祭は、一月十八日午前9時半（日本時間午前11時半）からタイの首都バンコック郊外一七キロの工場用地で、おごそかに行なわれた。式は日本側より社長夫妻、令息、令嬢、樋口常務、大房（沼津）所長、八島（島田）部長、三上課長、小林・青島両設計担当らタイ側は張卓生氏、張黄竜招女史、ホーヘンタイの陳社長ら、それに日本大使館ほか各界名士、報道関係者が参列して小乗仏教のタイの慣例にしたがい、僧侶がささげる読経とともに「タイ矢崎電線」の明日の繁栄を祈念した。

樋口常務の談によれば、工場用地はバンコック南一七キロ、産業道路とメナム河の間に位置、その対岸はトヨタの組立工場だ。用地面積二八ライ（一ライ＝五百坪強で約一万五千坪）。第一期工事は製造部門千二百坪、厚生部門八百坪。四月末日ごろまでに建設完了の予定である。

二月十日現在では敷地内の道路完成、護岸工事も七分どおり、製品検査、資材倉庫、焼鈍、撚線、PVCの五棟も基礎工事から鉄骨の棟あげに進んでいる。厚生部門では事務所、食堂、男子寮、女子寮ともコンクリート高床式の土台を終り、木造の柱だてに移った。工場と厚生施設を分ける中央のヤシ林は盛土中。周辺の整地も完了した。生産品目は一般、器具用、自動車用電線が主体で、工場完成と同時に当初月産五十トン、逐次市場とにらみあわせて量産を進める計画である。

同社役員には、矢崎社長、張卓生副社長、以下陳、門奈、県、樋口、大房の七氏を予定。また現地販売の仮店舗としてバンコック中心部の繁華街スリオンロードにある「タイ・ジュートKK」（張卓生社長）の二階を、張氏の提供により使用する。近づく五月、現地製ヤザキの電線がタイ市場にデビューする日も遠くない。

バンコック・アルバム

→ 工場中心部の地中深く貴金属を埋め、今後の平安を祈る社長と張卓生氏。

↑ 壮厳な読経と合掌のなかを、ローソクに点火する張氏。いならぶ黄衣の僧侶の手をつなぐ一本の細ひも。これぞ“一蓮託生”の精神であろう——とは、樋口常務の弁でした。

↑ 前列左から張氏、矢崎昌子嬢、社長夫妻、張黄竜招女史とお孫さんたち、杭中国大使夫妻、黄華僑総連合主席ほかの皆さん。
——張氏邸玄関での記念撮影——

↑ 30度を越すバンコックにも青いタやみが迫つてきた。工場用地のサクに遊ぶ南国の子らの無心な姿、みどりこいヤシの向うには、母なるメナムの大きな流れが夕陽をうけて白く光つている——。

←地鎮祭のお供物。タイ仏教では焼鳥や豚の頭もそなえられる。

→ 張氏邸の客間で歓談。社長ご一家張女史、大房、小林、青島氏ら。

↑ 用地の一角に立てられた、いわば矢崎の守護仏。タイ国人は土下座して毎朝礼拝を忘れない。
かたい握手をかわす社長と華作明華僑総連合主席。→

（これらの写真はタイ国世界日報・馬記者の提供）